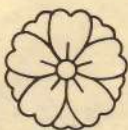
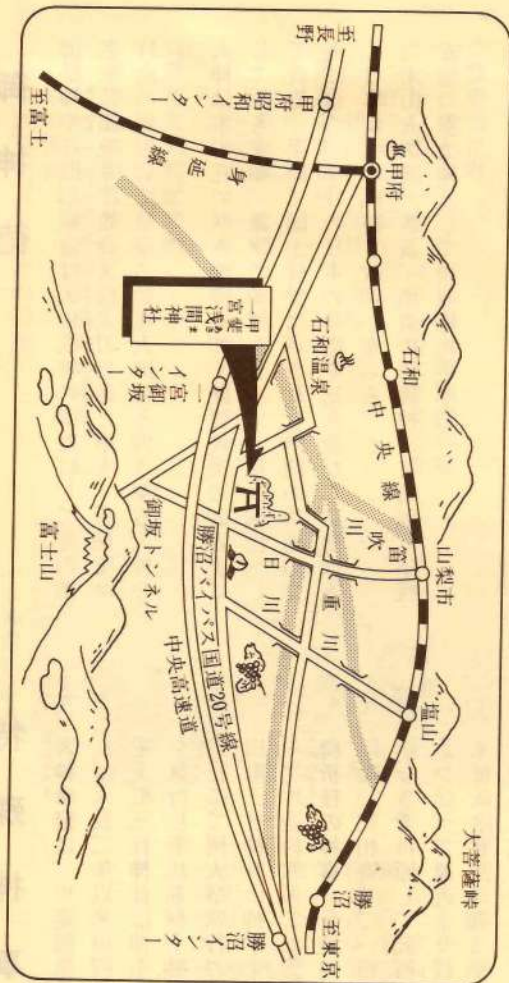


参拝巡路

山梨市駅よりバスにて
 (一宮經由甲府實川行) 約二十分
 甲府駅よりバスにて
 (一宮經由岩崎行) 約四十分
 ※ 高速バス利用の場合
 「一宮」停留所下車徒歩十分
 ※ 車の場合 勝沼インターより五分
 「石」信号右折。甲府方面よりは、
 「浅間橋」信号北側に入る。



甲斐国 浅間神社略誌

山梨県東八代郡一宮町一宮一六八四番地鎮座

電話一宮(〇五五三)四七—〇九〇〇番
 二四〇五



御祭神

木花開耶姫命
このはなさくやひめのみこと

御由緒

第十一代垂仁天皇八年正月始めて神山の麓に鎮祭す。今此処を山宮神社と称して摂社たり。第五十六代清和天皇の貞観七年十二月九日現在の地に遷祀せらる。甲斐國の一宮にして延喜の制に於ける明神大社たり。明治四年五月十四日国幣中社に列せらる。

本殿は流造銅板葺、拝殿は入母屋破風造銅板葺なり、境内は三、三九五坪（一ヘクタール余）

御神徳

御祭神木花開耶姫命は大山祇神の御女にして亦の御名を吾田鹿葦津姫命又桜太刀自命と申す。天孫瓊杵命の妃として皇室の始祖大御母と仰ぎ奉る大神なり。

大神は木の花の咲き映ゆる如く艶麗優美の御容姿にして而も孝順、謙讓の美德をもつて天孫に御仕へして貞節、至純、国土経営に尽されし内助の功極めて大にして、今日の日本の基礎を築き給ひし功德は永く日本女性の模範と敬仰し奉らる。

古来山火鎮護、農蚕、酒造の守護神、又婚姻、子授安産の靈徳神として崇敬極めて厚し。

特殊神事

一、大神幸祭は、甲斐國第一の大祭なり。社記によれば天長二年以来旧四月第二の亥の日中巨摩郡竜王町三社神社に神幸の上、川除祭（水防祭）を執行し来れるが、明治以後四月十五日と改め本社にて例大祭執行の後、同所及び甲府市上石田町三社神社に神幸す。（現在は竜王三社神社のみ）片途約六里（二四軒）に及ぶ行程なり。

一、梅折枝の神事、今境内瑞垣内に夫婦梅と称して陰陽二花相寄りて一顆を結実する神木あり、後嗣なき者祈願して此梅を食すれば子宝を得ると云ひ伝へて遠近より授与を請ふ者頗る多し、古来毎歲陰曆四月第二亥の日に神前に供へ、子授祈願祭を執り行ふ。

御 宝 物

○重要文化財

一、第一〇五代後奈良天皇御宸翰「般若心経」一軸、武田大膳太夫晴信奉納自筆の包装を添ふ。

一、摂社山宮神社 本殿 萱宇

○県指定文化財

一、国次の太刀（刀身三尺一寸五分）

武田信玄公奉納

一、一徳斎助則の太刀（刀身三尺四寸八分）

○県指定天然記念物

一、夫婦梅

○その他の御宝物

一、明治天皇御着用黄櫨染御袍並びに朱の御袴
一、武田信玄公自詠の短冊



（大神幸祭絵巻）

摂社 山宮神社

鎮座地 一宮町字山宮一七〇五番地
祭神 おはやまづみのみこと
大山祇命、瓊々杵命

本社を距ること東南二十丁余（二軒余）清流山宮川の水源地の麓にあり、千古の老杉二本、神木として連立す。本殿は春日造、檜皮葺にしてその結構頗る莊麗なり。

毎月十五日を恒例神祭日となす。三月十五日山宮神幸祭あり。当社は垂仁天皇の御宇鎮祭せられし本宮なりしも貞観七年十二月三柱の内木花開耶姫命現地に遷座ありしにより二柱を祭神とす。

うつし植る初瀬の花のしらゆふを

かけてぞ祈る神のまに／＼

一、参拾六歌仙（拝殿内に掲額）

鷹司前関白房輔卿の依御意、庭田大納言重条筆、土佐光成の末流、伊久間階求画、当町東新居、降矢盛重奉納（元禄七年）

一、狛犬貳体

摂社山宮神社内にありしを欠損を憂へ現在本殿内に格護す。

一、山宮神社棟札（永禄元年戊午仲冬吉日……）

浅間神社祭事暦

梅折枝神幸事
大社幸祭
例講山宮神幸祭
祈紀追元歳
年元儼始旦
祭祭祭祭祭祭祭祭

一月一日
二月三日
二月十一日
二月十七日
三月十五日
三月十五日
四月十五日
四月十五日
陰曆四月第二亥日

御田植祭
夏越大祓祭
秋季大祭
七五三祝祭
新嘗祭
天長祭
師走大祓祭
除夜祭
本社月次祭
山宮神社月次祭

六月十七日
六月三十日
十月十七日
十一月十五日
十一月二十三日
十二月二十三日
十二月三十一日
十二月三十一日
每月十五日



山宮神社かえるまた



山宮神社狛犬



夫婦梅